

平成27年度 第3回小城市協働によるまちづくり検討委員会 議事録

- 開催日時 : 平成27年7月30日(木) 午後3時～午後5時10分
- 開催場所 : 小城市役所 西館 2階 大会議室
- 出席委員 : 五十嵐委員、安德委員、本村委員、原口委員、眞子委員、秋丸委員、山田委員、横山委員、唐島委員、木下委員、東島委員、大坪委員、西岡委員、中島委員、石橋委員、光石委員
- 事務局 : (総務部 企画政策課)
大橋企画政策課長、熊谷副課長、池田市民協働推進係長
- 関係課職員出席者数 : 7名
- 傍聴者数 : 4名

《 議 事 録 》

午後3時 開会

1. 開 会

○大橋企画政策課長

皆さんこんにちは。今日とっても外が暑くて、外からおいでになった方は本当に熱風の中を歩いて来られたんじゃないかなと思いますけれども、大変お疲れさまでございます。

それでは、時間が参りましたので、あとはお一人お二人ぐらいまだおいでになっておりませんが、今から始めさせていただきたいと思います。

平成27年度第3回目になります小城市協働によるまちづくり検討委員会、まずお手元のほうにレジュメをお配りしているかと思っておりますけれども、最初に五十嵐委員長に御挨拶をいただいて、その後議事ということで、2つ今日は議題を用意しております。

1つは、前回皆さんに大野城市に先進地視察ということで御参加いただいたんですけども、その振り返りを事務局のほうでさせていただきたいと思います。その後、ワークショップということで、今日はワールドカフェというところまで行けないかもしれませんが、後ろのほうに飲み物を少し用意していますので、五十嵐先生のファシリテートによりましてワークショップを体験していただければと思います。

それでは、委員長挨拶よろしく願いいたします。

○五十嵐委員長

どうも皆さんこんにちは。暑い中、大変御苦勞さまでございます。この検討委員会も第3回目でございます。1回目と2回目は、主に勉強会ということで、人口の推移だとか住民あるいは自治会からのアンケート結果であるとか、そういったことの資料を皆さんと確認しまして、これからの協働のまちづくりの検討に本格的にこれから入っていくこととなります。

今まではどちらかという事務局的説明をずっと聞いているような感じで、なかなか検討委員会として自由闊達な意見を出し合う場がございませんでした。今回の委員会からももう少し突っ込んだ議論ができるようにワークショップ形式を取り入れてみました。

実はこの後、10月に三里地区でワークショップを行う予定でありますけれども、その三里地区で行うワークショップにも検討委員会の皆さんにも入っていただきたいと思っております。まずはこういうワークショップ形式で委員会の内容についていろいろみんなで考えを出し合うということにちょっとなれていただこう、そのようなことも含めまして、やや変則的な委員会になりますけれども、行うことになりました。どうぞよろしく願いいたします。それでは、早速議事に入ります。

まず、議事の1番目です。第2回検討委員会先進地視察の振り返りを行いたいと思います。事務局から説明をお願いします。

○池田市民協働推進係長

こんにちは。企画政策課市民協働推進係の池田です。よろしくお願いします。座って説明をします。

議事の1番目、『第2回検討委員会（先進地視察）の振り返り』を、資料1で説明をしたいと思います。

7月6日の第2回検討委員会先進地視察の振り返りを簡単にします。

大野城市のコミュニティによるまちづくりということで、大野城市の話聞きに行きました。

最初に人口等の【比較】をしています。大野城市は小城市の2倍強の人口でした。それに比べて面積ですが、小城市は大野城市の3.5倍強の面積があります。

行政区は、大野城市は27行政区がありました。小城市の人口は大野城市の人口の半分ぐらいですが、行政区は180あります。

大野城市の行政区の中で一番人口の多いところが8,588人、小城市の行政区の中で一番人

口が多いところが1,547人で牛津町の柿樋瀬地区になります。一番人口が少ない行政区は、大野城市では1,375人、小城市では4人・3世帯で小城市桑鶴地区になります。

大野城市はコミュニティという位置づけで4つのコミュニティがありました。最大のコミュニティ人口は34,892人、最少のコミュニティ人口は16,594人でした。

最後は、平成25年度の決算額を大野城市と小城市で比較しています。

次は【経緯】です。大野城市では昭和46年、コミュニティによるまちづくりの取組みとして、国のモデル事業で、南地区をモデルコミュニティに指定し、コミュニティセンターを整備されています。まずスポーツによるコミュニティ都市づくりということで、取り組まれていました。そこで、4地区全てにコミュニティセンターを建設されています。その後、市民参画によるコミュニティづくりということで、スポーツから市民参画をテーマとする生涯学習によるコミュニティづくりに進化されています。今現在、4つのコミュニティ地区と27の行政区の枠組みでコミュニティ活動を実施されています。

次のページになりますが、平成20年度に「コミュニティ構想（人づくり・地域づくり編）」を策定、平成21年度に「新しいコミュニティのかたち（素案）」を作成、平成22年度に「新しいコミュニティのかたちアクションプラン（骨子案）」を作成、平成22年度の12月に大野城市コミュニティ条例を制定されています。

次は、【組織体制】です。この中で、自助、共助、公助の取組みとして、市民が自分たちのできることを自分たちでやるという自助の組織として「コミュニティ運営委員会」を設置されています。また、市民と行政が共働りでできることをやる共助の組織として「パートナーシップ活動支援センター」、そして、公助、行政がやるべきことを実施する「地域行政センター」を設置されています。

自助の組織「コミュニティ運営委員会」の詳細ですが、総会が最高の決定機関で、会長がいて、区長の輪番制で会長を決定されています。その下に、副会長、事務局長がいて、その下部組織として部会制を敷いてありますが、体育部、文化部、福祉部、青少年育成部等で、それぞれのコミュニティにあった取組みをされています。そのコミュニティ運営委員会に行政職員も関わるということで、地域活動インターンシップであったり、ボランティアで職員がコミュニティ隊としてパトロール活動や各種行事に参加されています。

次のページ、【運営】です。

- ① 活動拠点です。27の区には公設の公民館が整備されており、区が指定管理者として

運営をされています。4つのコミュニティには、コミュニティごとにコミュニティセンターが整備されており、地域と市が共働で設立したNPO法人が指定管理者として運営をされています。

② 財源です。**区の財源**として、まず住民の方から区へ区費があります。

そして、地域活動統合補助金として、市から27区へ交付されています。

コミュニティ運営委員会の財源ですが、こちらの方にも、地域活動統合補助金のコミュニティ運営委員会分ということで、市から4コミュニティ運営委員会へ交付されています。

コミュニティ運営協議会の財源ですが、コミュニティ協議会というのは、前のページに戻りますが、コミュニティのイメージのところでは総合調整を担う機関となりますが、このコミュニティ協議会の財源は、コミュニティ協議会運営交付金として、市から交付をされています。また、コミュニティ協議会に対する負担金として、それぞれの区から所属のコミュニティ協議会に、コミュニティセンターの指定管理者として地域と市が共働で設立したNPO法人から、所属のコミュニティ協議会に負担をされていました。

③ 人的支援です。市・行政からの支援として、4つの制度があります。

コミュニティ担当職員制度、部長が職員を選考して市長が委嘱をされます。

コミュニティ推進委員制度、コミュニティ協議会が推薦されて、市長が委嘱をされます。

職員コミュニティ隊、ボランティアグループになりますが、コミュニティのイベントスタッフや地域の清掃活動、夜間パトロールを行われています。

地域活動インターンシップ研修制度、入庁3年目と10年目の職員がペアで年間40時間、区が行う各種事業、企画会議へスタッフ補助員として参画をされています。地域の皆さんと知り合うきっかけの場づくりという位置づけもされています。

最後に、大野城市の行政区、区について、大野城市で考えるコミュニティとはということで記入しています。

簡単ですが、大野城市のコミュニティによるまちづくりの取り組みの説明を終わります。

○五十嵐委員長

ありがとうございました。

研修会に参加された方、感想とか意見とかございましたら、お願いいたします。はい、どうぞ。

○木下委員

青少健代表の木下と申します。先進地視察を終えて、取り組みが理解できたとか、理解できなかったかというふうなことで、市からも質問が来ておりました。その中で、私として感じたことを申し述べさせていただきます。

最初の取り組みとしては、大野城市はスポーツや祭りによるコミュニティ都市づくりからスタートをされたというお話を聞きました。その中で、まどか運動を推進することで市民の連帯意識が生まれた。福岡市のベッドタウンとして発展するよう、地域住民、行政が力を合わせて、最終的には市民の幸せ、安心・安全なまちづくりを目指している様子をもものすごくアピールをされました。特に印象に残ったのは、地域づくりには多様な知恵が必要ということを感じました。

研修を終えて、感想、意見をというようなことですが、先ほど池田係長のほうから説明をいただいたんですが、大野城市の人口は小城市の倍ですが、小学校がちなみに聞いたんですが、小学校は10校、中学校は5校というのは、ちょっと少ないんじゃないかなというように感じました。

大野城市は、コミュニティに取り組み始めて40年もの歴史があり、コミュニティの土台があり、どれも話を聞いてもすばらしい、すばらしいの一言ではなかったかというふうに思いまして、小城市はスタートしたばかりで余りにも差があり過ぎて、お話は圧巻でしたと。まねしようにもまねしようがないというように、できることから徐々に始めようかなというふうな感じを受けました。今までは行政に頼ってきましたが、これからは自分たちの地域は自分たちでまちづくりをしていかなくてはと、皆さんが強い意志を持たないといけないなというふうなことを感じました。

以上です。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。ほかに何か御質問なり御感想なり、お願いいたします。

○横山委員

老人クラブの横山といいます。感想は今おっしゃったとおりですけども、私は大野城市で特に感じましたことは、今の社会というのは、人・物・金・情報の集合体だと思うんですね。人間社会も集合体、そして、まちづくりも集合体だと思います。そうしますというと、大野城市の場合ですと、人・物・金・情報というのをうまく組み合わせて、しかも、これを

全て有効に活用していらっしゃる、そういう感じを持ったわけです。

例えば、4地区にコミュニティセンターをつくったというのは、あれは多分、何かの校区だと思うんですね、4つの校区、中学校か——まあ、小学校じゃないでしょうけれども、校区ごとにできた。そして、あそこは中央公民館を廃止した、これも画期的なことだと思うんですけども、27ある区に公民館分館と言われていたものを、これを廃止して公民館を地域づくりの拠点としてコミュニティにした。しかも、これは自主運営方式、これはそうでしょうけれども、教育委員会のほうから市長部門のほうに移した、これもまた画期的だと思います。変化したという、そういう文言が出ておりましたけれども、そうだと思います。

それと最後に、本当に感心いたしましたのは、人・物・金・情報ですけども、ここでは行政機関、市民団体、市民が一体となっている、一丸となっている。しかも、情報を共有して、その情報を全ての部門で活用していらっしゃる。ただ、私はこれは人間というのには感情がありますので、時には反目したりすることがある、反目と言わなくても冷淡になるときだってある、冷淡と言わなくても無関心だったりすることがある、そういう市民が絶対にいないとは言えないと思うんですけども、その辺のところは今回の視察では十分、きめ細かとは言いながらも、細部まで行き通っているのだろうか、10万人を本当に一丸にまとめられていらっしゃるのだろうか。日陰、何ていうですか、汽車は高架を走り思いは東の陰をさまよう、そういう日陰をさまようような人がもしいたとしたら、やっぱりその辺に目を通さなくてはいけないのじゃないだろうか、そういう感じを持ったんですけども、小城市は決して引けをとらなくてもいいと思うんですね。そんなに大きくもない、人口だって半分ぐらいですから、きめ細かなことが行き届く、これを参考にすれば、非常にいいまちづくりができるんじゃないだろうかと、こういう感想を持ちました。

以上でございます。

○五十嵐委員長

どうもありがとうございます。ほかに何か感想なり御意見なりございますでしょうか、参加された方。はい、お願いします。

○本村委員

研修で一番感じたことは、非常に大野城市はコンパクトなピラミッド型をつくっておられる。それと比較して小城市の場合には、ピラミッド型というよりも裾野の広い行政になっておる。これを何とか、やっぱりコンパクトな正三角形になるように、ピラミッド型になるよ

うに小城市がやっていくことが最終的なコミュニティの、協働のまちづくりになっている。

それから、地域ごとの活動について、今、小城市でも盛んにやっておられる地域はあるんですね、協働によるまちづくり。ところが、大野城市は市全般にわたってそういうことになっている。小城市の場合には何もそういうことをやっていない地域もあると。これをどうやって協働によるまちづくりのために情報を開示して理解をしてもらおうかというのが、これからの我々の仕事じゃないかなというふうに非常に痛感をいたしました。

以上です。

○五十嵐委員長

ありがとうございます。ほかにございますか。

今、3名の方から感想も含めまして報告をいただきました。私なりの感想も含めてちょっと補足いたしますと、大野城市はまさに福岡市の近郊にあつて、郊外型といいますけれども、郊外のまちで人口が急増した地域です。その人口が急増した地域の中で隣同士をほとんど知らない、そういった人たちがどんどん地域に入ってきます。そんな中で、コミュニティづくりが極めて重要な、都市としての政策課題であつて、それに熱心に取り組んできた地域だと理解しております。

福岡県の福岡市に隣接する、そういう住宅都市というのは、多かれ少なかれ、このコミュニティづくりの取り組みが比較的早い段階から進んできた地域というふうに私は理解をしています。その中で、今回訪問しました大野城市、前回ですかね、佐賀市の川上、金立校区に研修に行った折に、川上校区の住民の方々が行政に対してかなり批判的なこともたくさん言っておりました。今回は大野城市の市の担当者からの説明でしたので、具体的な住民の生の声を聞いたわけではございません。4つの大きなコミュニティ組織があるわけですが、そのコミュニティ組織で話を聞いたら、また違う側面とか問題点が出た可能性もございます。それは先ほどの御意見にあつた、本当に住民の意見がわかりにくいと言っていた点も多分そういうことだろうと思います。

だから、私なり大野城市で強く印象に残ったのは2つないし3つですね。1つは共助のところで、行政と市民が協働してつくったNPO法人ですね、この4つのNPO法人が、かなり重要な役割を果たしていると、そういう印象を持ちました。本来、そのNPO法人、いろんな立ち上げの仕方がありますけれども、行政と市民が協働してつくるNPO法人——どちらが、本当の意味でNPO法人であるかどうか難しい点はございますけれども、とりあえず、

このNPOが重要な役割を果たしているという印象を持ちました。

それと、財源ですね。かなり一括する形で交付金という形で渡していて、そのコミュニティ組織がお金の使い方について自分なりにちゃんと計画して使えと、そういう仕組みをとっていること、これも大きなポイントだろうと思っております。

それと、市の職員のかかわりの仕方ですね。かなり積極的にコミュニティ組織を支援している、あるいは入庁3年目と10年目の職員がペアとなって、年間40時間、インターンシップという形で市民の中に入り込んでいく、こういったところは非常に大きな意味のある活動だろうと、そんなふうに私は印象として持ちました。

長い歴史を持っている大野城市のようなものに小城市がすぐになれるわけではありません。しかしながら、いろんな都市がこういったことに取り組んでいるという情報だけはたくさん入ってくるようになっていきます。つまり、今この時期、あえてこの時期に小城市でこういったことに取り組むというのは、ほかの先進的な事例、いいところをたくさん参考にできるということでもあります。そういった点も参考にしながら、小城市ならではの協働のまちづくりをこの検討委員会で考えていかなければいけないと、そのように思った次第でございます。

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、議事の2番目に移ります。

『ワークショップ』を、「協働のまちづくりについてみんなで考えよう！」というテーマで、行います。

受付時、くじを引いてもらい4～5人の班をつくってもらい着席済み

* 自己紹介

* 人口減少を前提にした小城市の課題について

・抽選で各班のテーマを決める。

- 1 班 地域活性化 (委員3人・職員2人 計5人)
- 2 班 子育て・教育 (委員3人・職員2人 計5人)
- 3 班 雇用・産業 (委員3人・職員1人 計4人)
- 4 班 暮らしの安全安心 (委員4人・職員1人 計5人)
- 5 班 健康・福祉 (委員2人・職員2人 計4人)

- ・各班のテーマについて人口が減少していくという事を前提として、小城市が抱えている課題・何が問題なのか意見を出し合う。
- ・それぞれ各人で付箋紙に記入し模造紙に貼り付ける。
- ・それぞれの班で似た課題をまとめ、分類分けをする。

* 課題解決に向けた協働のあり方について

- ・分類分けした課題について、班で課題解決のために市民、行政、事業者・NPO がそれぞれやるべきこと・役割をあげる。

* 発表

各班ごとに発表

○五十嵐委員長

皆さんどうもお疲れさまでした。限られた時間で、この検討委員会が果たすべき仕事は、非常にテーマが広いという前提で、あえて5つのテーマで話をさせていただきました。本来であれば、例えば、暮らしの安全・安心だけに絞ってみんなでやったほうが結果的にはいい結

論らしきものが出たかもしれません。しかし、現段階では、私たち検討委員会はありとあらゆることを考えなければいけないのだという前提で、あえて自分の関心とは違うテーマであっても取り組んでいただきました。ただ、皆さんの今回のワークショップの中で、私があえて前もって提示しなかった条件について気づいたところが余りありませんでした。唯一5班かな、5班の熊谷副課長が言われましたが、校区単位で取り組みができればという言葉があったんですね。先ほどの例えば、第1班にせよ、第2班にせよ、NPOが大事だねという意見出てくるんですけど、確かにNPOは今も重要ですし、これからも重要になっていくんですけども、例えば、NPOのような法人格を持っているような志のある団体、そういったものが成熟していけば言うことないんですけども、その段階まではすぐに私たちは進めないわけですね。そうすると、従来の自治会だとか、何とか会だとか、そういう団体を越えて、やはり連携し合うことが必要になる。その場合に、私はあえて市民自治会、何々会という、これは伝統的な従来型の組織です。新しいNPOだとか、あるいは企業の果たす責任だとか、そして行政だとか、あえて私こういうふうに分けたんですけども、こういう分け方は当然前例として協働はあるんですけども、どういう広がりや協働するのかということが重要なポイントだろうと思っています。自治会単位で今までやってきたんですね、行政区単位で。これはほとんどの地域は人口が減っていく、あるいは高齢化していく、この小さな組織だけではやはり解決が難しくなっているわけですね。じゃ、それを行政にお願いしましょうか、NPOに頑張ってもらいましょうかというような考え方で今議論が流れてしまう。そうじゃなくて、色々な行政区あるんだけど、校区単位で問題解決に取り組むとすれば、いろんな人がかかわれるでしょう。あるいはNPOのような存在ではないんだけど、志を持った組織がこの中で生まれるし、つくっていかないといけないでしょう。そのように考えるのが今回の協働のまちづくりを考える場合に私は重要だと思っています。それで、いろんな先進的な地域を訪問したのは、そのコミュニティの組織——コミュニティの組織というのは、今までの前提よりもかなり大きな範囲で捉えたほうがやりやすいでしょう。それがおおむね小学校区単位くらいで考えましょうという発想だったわけです。それぞれの今チームごとにいろんな課題があって、それをどう取り組むのかというときに、小学校区単位で考え直したら、違う解決の方法だとか、新しい解決の方法があるのではないかというふうなことをこれからの検討委員会で考えていってほしいと思っています。実際に10月ですか、三里地区でワークショップをやるわけですが、そのときにはやはり校区で取り組むこと、校区単位で

取り組んだらこんなことができるよね、こういった解決の方法があるよね。そのときに、じゃ、行政は、NPOはどんな関わり合いの仕方があるのですかと、そんなふうワークショップが進んでいけばいいかなとは思っています。私が一番に考えたのはそこです。

あとは、例えば、NPOのような組織化された団体じゃなくても、NPOに近いような活動の芽が今いろんなところでできていますね。例えば、くらしの安全・安心で言えば、自主防災組織、こういうのは従来の消防団にはできないと思う。あるいは消防団そのものが団員が少なくなったり高齢化していて機能が果たせなくなっている段階で、市民みんなが防災に取り組みましょうと。自主的な防災組織をつくる動きがあります。こういったものは、例えば、市民だけじゃなくて市の職員も入るし、企業の人も事業者も入るし、市の職員だとか事業者も含めて自主的な防災組織をつくって自分たちの安全・安心を果たしていきましようというふうな動きがあります。これはNPOでも何でもないですよ。ある広がりを持った小学校区単位で、例えば、こういったものを組織してやっていきましよう、これがつまり新しい志縁、志で結びついた組織ということになります。NPOを成熟させることは極めて重要なんですけど、NPOだけに全部任せてしまおうみたいな風潮が最近よくあります。行政はNPOを育成して、NPOに丸投げした。市民はNPOがやってくれるからといって全部NPOに丸投げした。そういう状況があります。NPOは大事なんだけど、こういう志を持った新しい協働型の組織、そういったものをつくっていく必要があるだろうと、そんなふうには私は皆さんのワークショップを見ていて思いました。

あと1班ですかね、行政のスリム化の話があったんです。その行政のスリム化というのは、簡単に言えば、校区単位で取り組めば実質的にスリム化につながるだろうと私は思います。そういったことをちょっと印象として思いました。

今回のワークショップはある意味みんなで考えていくための方法として実験的にやったものです。ここで何らかの結論を期待しているわけではありません。こういうふうにしてみんなが意見出しをしながら話し合うことが極めて大事だと、そのように思っています。検討委員会はその後ずっと続いていきますけれども、こういうワークショップ型の会議、これは実際の校区単位でこれから少しずつやっていくことになります。その第1号が三里地区で行う予定であります。三里地区でどんなワークショップをするかということで、これは次回の会議のときに皆さんからいろいろ意見を出してもらおうと思います。今回のように、全てのテーマでやると、なかなかある特定の地域でやるとまとまりにくいのかなと思いますので、

ある程度テーマを限定するような形でやることも考えておりますけれども、そういったときに、今日ワークショップをミニテーブルで仕切っていただいた方々には、引き続いて三里地区での実践についていろいろアドバイスをいただければいいかなと、そんなふうに思っております。

限られた時間でいろいろ皆さん御協力いただきまして、ありがとうございます。

○池田市民協働推進係長

皆さんお疲れさまでした。

今後の予定ということで、次第の下のほうをごらんください。

第4回目の検討委員会を8月24日月曜日、2時から場所は「ゆめりあ」になります。今までと場所は変更になりますので、お間違えないようお願いをします。

第5回目の検討委員会は、先ほど五十嵐先生が言われましたように、三里地区での協働によるまちづくりのワークショップを予定しております。10月16日金曜日6時30分から、場所が三里小学校の体育館を予定しております。その後、第6回目を11月上旬、第7回目を11月下旬というふうに考えております。皆さん日程の確保をお願いします。開催の案内は後もって通知をお出ししますので、よろしくをお願いします。

それでは、皆さん長時間にわたりありがとうございました。これで第3回小城市協働によるまちづくり検討委員会を終了させていただきます。お疲れさまでした。

午後5時5分 閉会